

「しまねっ子 すくすくプラン(後期計画)」の平成24年度末における進捗状況

「しまねっ子 すくすくプラン」における施策概要				平成24年度末における進捗状況						実施主体	
施策番号 及び 施策名称	事業名	事業期間	事業目標	現状値及び目標数値		24年度末 目標数値	24年度末 実績数値	進捗 状況	進捗状況に関するコメント	今後の見通し、25年度の取組方針等	担当課
				20or21年度	26年度						
基本理念 I 子育て・子育てをみんなで支える地域づくり 基本施策1 県民気運の醸成と地域における子育て支援の輪の拡大											
1-① 県民気運の醸成(産学官民一体となった普及啓発事業)											
◇全県的広報・啓発の充実	H22～H26年度	こころ事業のバスポート普及率	H20 65%	→	H26 80%	-	-	目標を達成した	県と市町村の連携により、こころバスポートの普及率は目標を達成した。 また、「こころキャンペーン」及び「こころ親子キャンプフェスタ」を実施し、効果的に広く普及啓発を展開することができた。 協賛店の登録はあるものの、廃業等による脱退もあるため、登録数の伸び幅が少なかった。	こころバスポート、こころ協賛店のPRを図るため、こころ協賛店を紹介するフリーペーパーの発行、西部地域でのフェスタの開催、年間通してのキャンペーンを実施する。	青少年家庭課
	H22～H26年度	こころ事業の協賛店舗数	H20 1804店舗	→	H26 2,500店舗	2,300	2,219	遅れているが、目標年度には回復可能			
1-② 地域における子育て・子育て支援の輪の拡大											
◇地域の創意工夫による子育て支援の充実	H22～H26年度	子育てサロンの活動数	H20 110か所	→	H26 120か所	-	198	目標を達成した	「子育てサロン」は目標を上回って設置され、子育て家庭にとって一番身近な相談の場、交流の場としての役割を果たしている。また、サロンの設置・運営を通して、地域の様々な団体等の連携が図られ、子育て支援の輪が広がった。	地域の特性、子育て中の家庭の多様なニーズに対応し、地域住民や民間団体、企業など様々な主体が参画した創意工夫による子育て支援を市町村と連携して提供することで、子育て家庭の不安感や負担感、孤立感の解消を図るとともに、子どもの健やかな成長を支援する。	青少年家庭課
	H21～H26年度	子どもの預かりに 取り組む民間団体等の活動数 (ファミリーサポート・センター含む)	H21 12か所	→	H26 22か所	-	19	順調である	しまね子育て支援プラス事業を活用して、地域での預かり事業を支援した。 ・ファミリーサポートセンター 9市町村(14か所) ・民間団体等 5か所	H24年度も引き続き、プラス事業で預かり事業に取り組む民間団体等を市町村と連携して支援していく。	青少年家庭課
◇地域社会で子どもが心安らく放課後や休日の環境づくり(放課後子どもプラン)	H22～H26年度	放課後や休日の子どもの過ごし方を検討している市町村の割合	H21 81%	→	H26 100%	90%	90%	目標を達成した	全ての市町村で、放課後支援を含む、地域で子どもを育む取組に関する議論を行う場が設けられた。 また、18市町164箇所放課後子ども教室が設置された。 さらに、放課後児童健全事業に併せた放課後児童クラブの設置も進んでおり、両事業の充実が小学校区は12.2%増であった。両事業とも実施していない市町村は0となった。	放課後や休日等に子どもたちが安心して自由に過ごすことや体験活動、異世代交流等ができる環境づくりを支援するため、放課後児童健全育成事業(施策2-②)や結果!しまねの子育て協働プロジェクト(放課後支援(放課後子ども教室)の推進を図り、両事業での連携した取組や指導者育成を推進する。	青少年家庭課 社会教育課
◇地域社会で子どもが健やかに育つ環境づくり	H22～H26年度	子ども支援センター継続支援員登録数	H21 437人	→	H26 500人	470人	358人	遅れており、目標年度の目標達成は微妙	子ども支援センター相談員、立ち直り支援ボランティア等の連携により立ち直り支援活動に順調に推移しているが、H21年度から異に活動が可能な継続支援員のみ登録するなど「継続支援登録」の見直しを行っており、その結果、形骸化していた継続支援員が登録から外れたため、目標値を大幅に下回ることとなった。	複雑、多様化する子どもの問題に対応するため、関係機関・団体との連携を強化し、重層的な支援策に取り組み。	少年女性対策課 青少年家庭課 義務教育課
◇民間の子育て支援活動の促進	H22～H26年度	みんなで子育て応援隊(こころ隊)登録団体数	H20 90団体	→	H26 230団体	160	201	目標を達成した	公民館モデル事業3団体、地域子育てカアップモデル事業5団体への助成を実施し、民間の子育て支援活動を促進することができた。 また、こころ講師派遣事業をより活用してもらえよう要件を緩和し、こころ隊50団体へ74名のこころ講師を派遣した。	こころ隊、こころ講師派遣事業をもっとPRし、本事業が民間団体等の活動の充実の一助となるよう情報発信等に取り組む。 また例年開催しているこころスタッフ交流会の充実を図り、こころ隊同士の交流、情報交換、意識啓発の場となるよう努めるとともに、こころ隊登録数の増加に努める。	青少年家庭課
◇NPO・ボランティア活動の促進	H22～H26年度	子どもの健全育成を掲げるNPO法人総数	H21 100団体	→	H26 120団体	112	129	目標を達成した	県民の社会貢献活動に対する理解や、参加意欲の増進により、「子どもの健全育成」を活動テーマとする法人数も増加したことから、H24目標達成後も着実に増加している。	NPO法の改正や新しい公共支援事業(H23～24)により、NPO法人の活動基盤整備も進んでいることから、全体法人数も増加しており、あわせて「子どもの健全育成」を活動テーマとする法人数の増加も期待できる。 H25の取り組み方針については、社会貢献活動支援事業等により、NPO法人等の活動支援を予定している。	環境生活総務課
◇世代間交流の促進	H22～H26年度	子育て支援に取り組む老人クラブの割合	H21 90.5%	→	H26 100.0%	100.0%	100.0%	目標を達成した	県老人クラブ連合会の重点目標1つとして、児童の登下校時の見守り活動などの地域の安全・安心を支える活動を推進しており、また地域文化・伝承活動にも積極的に取り組むなど、県内クラブ全体に子育て支援活動が広がってきた。	老人クラブ固有の課題として、地域の重要な支え手としての期待に応えていくことや、高齢化が進むクラブ組織の維持・活動活性化を図っていくことが求められている。世代間交流に関する活動は、課題解決とも関連が深いため、自主的な活動が継続していけるよう、取り組みを促進していく。	高齢者福祉課

